

本との 出会いを 楽しむ

第 28 回

公認会計士の本棚

「経理と経営の 早わかりマニュアル」

岡井 眞

公認会計士・税理士。1972年弘前大学人文学部経済学科卒業。

ブライス・ウォーターハウス会計事務所、弘前大学非常勤講師を経て、岡井公認会計士事務所所長、青森監査法人代表社員、2004年から弘前大学経営協議会委員。



公認会計士として弘前市で開業して間もなく、商工会議所から簿記の講義を頼まれましたが、社会人向けの講義をして行く中で、どうしたらわかりやすく眠くならない講義ができるだろうかと考えていました。

ある日、書店で簿記に関連する本の中に、『人事屋が書いた経理の本』という変わったタイトルの本を見つけました。普通なら経理部の方が書くところ人事部の方が書いていたのが不思議でした。

さっそく読んだところ驚きました。経理のみならず経営についてもわかりやすく書いてあったからです。

巻末には経営の研修方法としてマネジメント・ゲーム（以下MGと略記）が紹介されていましたが、この本は人事部教育課の方が全社員の教育のために、MG研修と会計書の読書により経理と経営に対する理解を深め書いたものだったのです。

この本は左側のページが図解で右側のページが講義の内容となっていますので、読みやすく感じました。

講義の最初の「財務会計の眼」では、会計とは何かを解き明かします。一言で言うと会計とは「フローとストック」であり、P/L（フロー）とB/S（ストック）の作成が会計の最終目的です。

次に「採算の眼」では、費用を変動費と固定費に分け、売上から変動費を差し引いた金額を付加価値と呼びます。損益分岐点とは付加価値が固定費と等しい点と

定義できます。損益分岐点比率は会社の成績を表しますが、売上必要倍率をも表します。

また「採算戦略の眼」では、売上及び付加価値を数量と単価に分け、売上数量と付加価値単価及び固定費の三つの指標の増減について、利益を最大化するために戦略的に考えます。固定費は有効に使えば競争力を生み出しますので、付加価値アップにつながるように使います。

さらに講義は「B/Sの眼」「B/S戦略の眼」「資金繰りの眼」「マトリックス会計の眼」と続きます。

この本を読んで経理がわかるようになり、戦略思考が培われ、会計用語が共通語となることができれば、職場チームの活性化に大変役立ちます。

読後さらにMG研修に参加すれば、入札による販売でのプライシング（商品の値段付け）の大切さや黒字を出すことの難しさを実感できます。

ゲームは楽しいのですが、成績を上げるために必死になりますので、眠くなるどころではありません。

私は眠くならない講義を見つけたように思いました。

（おかい まこと）

本館所蔵

「MGから生まれた戦略会計マニュアル」
（人事屋が書いた経理の本 1）
協和醗酵工業株式会社著

開架図書（本館2F）

336.9
Ky6m